

J-クレジット制度認証委員会
(J-クレジット制度事務局御中)

平成27年8月18日

検証結果の概要報告書

検証結果の概要について以下の通り報告いたします。

対象プロジェクト名											
岩手県県有林における森林吸収量取引プロジェクト											
GHG 検証機関											
当該プロジェクトにおける検証を行うにあたり、当該プロジェクトに関して一切の利害関係がないことを宣誓します。											
機関名	一般社団法人 日本能率協会										
担当部署名	地球温暖化対策センター										
責任者名	鈴木 健司										
責任者 E-mail	Kenji_Suzuki@jma.or.jp										
責任者電話番号	03-3434-1245										
審査員名 ⁱ	審査担当者: 井上 裕之 テクニカルレビュー: 松本 素之										
機関要件への合致	JISQ 14064-2 の認定機関 約款および登録申請書を提出し、承認を受けている										
検証結果											
適用妥当性確認・検証ガイドライン	妥当性確認・検証ガイドライン Ver.2.2										
事業者との契約日	2015年7月24日										
モニタリング報告書受領日 ⁱⁱ	2015年7月27日										
検証報告書発行日	2015年8月18日										
現地審査	<table border="1"> <tr> <td>期間</td> <td>2015年8月3日～4日</td> </tr> <tr> <td>審査内容</td> <td> 1) プロジェクト進捗状況の確認(風雪害や獣害などの有無の確認を含む) 2) モニタリング報告書の確認、修正の指摘 3) QA/QC体制の運用状況の確認 4) 現況森林の確認 5) 現地審査結果の報告 </td> </tr> </table>	期間	2015年8月3日～4日	審査内容	1) プロジェクト進捗状況の確認(風雪害や獣害などの有無の確認を含む) 2) モニタリング報告書の確認、修正の指摘 3) QA/QC体制の運用状況の確認 4) 現況森林の確認 5) 現地審査結果の報告						
期間	2015年8月3日～4日										
審査内容	1) プロジェクト進捗状況の確認(風雪害や獣害などの有無の確認を含む) 2) モニタリング報告書の確認、修正の指摘 3) QA/QC体制の運用状況の確認 4) 現況森林の確認 5) 現地審査結果の報告										
排出削減・吸収量	<table border="1"> <tr> <td>年度</td> <td>2014</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>t-CO2</td> <td>742</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	年度	2014				t-CO2	742			
年度	2014										
t-CO2	742										

<p>検証結果の要約</p>	<p>一般社団法人日本能率協会地球温暖化対策センター(以下、当協会という。)は、プロジェクト事業者である岩手県の「オフセット・クレジット(J-VÉR)制度に基づく温室効果ガス吸収プロジェクトモニタリング報告書」(以下、報告書という。)に記載された二酸化炭素吸収量情報について検証を行なった(モニタリング期間:2014年4月1日～2015年3月31日)。</p> <p>その結果、報告書に記載された二酸化炭素吸収量情報は、方法論(No.R001Ver.6.3)、オフセット・クレジット(J-VÉR)制度実施規則(Ver.4.4)、モニタリング方法ガイドライン(Ver.4.3)、妥当性確認・検証ガイドライン(Ver.2.2)に準拠しており、誤りの合計値は、重要性の量的基準である5%未満(0%)となったことから、全ての重要な点について適正であると認める。</p>
----------------	--

ⁱ 審査担当者、レビュー担当者、外部専門家を含み、それぞれの役割を記載すること。

ⁱⁱ 検証機関がプロジェクト代表事業者等からモニタリング報告書を受領した日を記載すること(この日を以て当該検証の開始日とみなす)。

【検証報告書及び付属情報様式】

オフセット・クレジット（J-VER）制度

検証報告書及び付属情報

検証対象

岩手県

プロジェクト名：岩手県県有林における森林吸収量取引プロジェクト

検証対象年度

2014 年度

(2014 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日)

2015 年 8 月 18 日

一般社団法人 日本能率協会

検 証 報 告 書

2015年8月18日

J-クレジット制度認証委員会 御中

一般社団法人日本能率協会
地球温暖化対策センター
上級経営管理者 安井 亮 印



1. 検証の目的及び範囲

一般社団法人日本能率協会地球温暖化対策センター（以下当協会という）は、オフセット・クレジット（J-VER）制度におけるプロジェクト事業者である岩手県（以下、事業者という。）の「オフセット・クレジット（J-VER）制度に基づく温室効果ガス吸収プロジェクトモニタリング報告書」（プロジェクト名：岩手県県有林における森林吸収量取引プロジェクト）（以下、報告書という。）に記載された二酸化炭素吸収量情報について検証を行った。報告書を作成し、報告する責任は事業者にあり、当協会の責任は、独立の立場から報告書に記載された二酸化炭素吸収量情報に対する意見を表明することである。

2. 検証手続

当協会は、ポジティブリスト、方法論、オフセット・クレジット（J-VER）制度実施規則（Ver.4.4）、モニタリング方法ガイドライン（Ver.4.3）、妥当性確認・検証ガイドライン（Ver.2.2）に準拠して検証を行った。この検証業務の基準は、検証業務のリスクを勘案して策定した計画に基づいて、意見表明の基礎となる合理的な保証を得ることをもめている。検証は、算定基準の適用方法、データの測定方法、事業者が採用した仮定、それらの基礎となるデータの評価、及びモニタリング報告書記載事項の内容検討も含んでいる。これらの検証手続により、当協会は、意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

3. 検証の結論

当協会は、事業者の報告書に記載された情報が、上記に挙げた準拠資料に基づいて、すべての重要な点について適正であると認める。

以上

付 属 情 報

プロジェクト代表事業者名	岩手県
プロジェクト名	岩手県県有林における森林吸収量取引プロジェクト
方法論	No. R001 Ver. 6.3
検証機関名	一般社団法人 日本能率協会

1. 基本事項

1.1 検証チーム

本プロジェクトにおける検証チームを下記に示す。

チームリーダー：井上 裕之

検証員は、下記の項目に留意し、検証を行なった。

- 1) 職業専門家としての正当な注意を払う
- 2) 独立性を保つ
- 3) 利害相反
- 4) 倫理的行動
- 5) 検証活動及び検証報告書への真正かつ正確に反映
- 6) オフセット・クレジット制度の要求事項を満たす

1.2 検証の保証レベル

合理的保証とする。

1.3 検証目的

プロジェクト申請者が作成したモニタリング報告書の排出削減（吸収）量が、J-VER 制度のポジティブリストや方法論・適格性基準への整合性、排出削減（吸収）量の計算方法、モニタリング方法等のルールに基づいて適正であるかどうかについて、結論を表明することにある。

1.4 検証の基準

ポジティブリスト、方法論、オフセット・クレジット（J-VER）制度実施規則（Ver. 4. 4）、モニタリング方法ガイドライン（森林管理プロジェクト用）（Ver. 4. 3）、妥当性確認・検証ガイドライン（Ver. 2. 2）に準じる。

1.5 検証の範囲

申請者より提出された、「オフセット・クレジット（J-VER）制度に基づく温室効果ガス吸収プロジェクトモニタリング報告書」。

1.6 重要性の基準

重要性の量的基準値は、プロジェクト全体に占める排出削減（吸収）量の 5%とする。

1.7 リスク評価

特定したリスクとその原因	リスクの評価	リスクへの対応策、検証手続	試査	対応策実施後の評価
QA/QC体制：QA/QC体制がモニタリングプラン通りに運用されていない可能性がある。	吸収量に大きく影響するものの、モニタリングプランでは、責任体制が明確に示されている事から、リスクは低いと判断する。	聞き取り及び記録の確認より、吸収量の算定、確認、承認が適切に行われているかを確認する。	—	聞き取り及び記録類の確認により、QA/QC体制が適切に運用されている事を確認した。
予見できなかった森林被害（森林火災、風雪害、病虫害、獣害、震災による地すべり等）により成林していない場合、吸収量が確保されない可能性がある。	吸収量に大きく影響するものの、対象地は事業者により巡回管理されており、リスクは低いと判断する。	①森林被害の有無について事業者へ確認する。 ②形状比の大きい対象地を中心に現地審査を行う。	有	現地審査は当初のサンプリング計画通り実施した。事業者への聞き取り、及び現地審査の結果、吸収量に影響がない事を確認した。

1.8 検証計画

検証は、下記のフェーズで構成される。

- 1) 戦略分析・リスク分析の実施
- 2) チェックリストの作成
- 3) チェックリストを事業者へ送付
- 4) 修正版の提出・確認
- 5) 追加指摘事項に対する、修正版の提出・確認
- 6) 検証報告書案の作成

プロジェクト代表事業者名：岩手県
 検 証 機 関 名：一般社団法人日本能率協会

- 7) テクニカルレビュー
- 8) テクニカルレビュー対応、報告書の提出

1.9 サンプルリング計画（現地審査）

サンプルリングの実施（チェック印）

- ：(レ) リスク評価の結果、サンプルリングを実施 →検証数量を記入
- ：() リスク評価の結果実施しなかった →記入不要

排出(吸収) 源 No.	検証の対象(証憑)	サンプルリングのカバレッジとその根拠	
		カバレッジ	カバレッジの根拠
スギ	モニタリングプロット (5/14 箇所)	38%	カバレッジ=グルーピングされた小班の吸収量/総吸収量
ヒノキ	モニタリングプロット (1/2 箇所)	2%	カバレッジ=グルーピングされた小班の吸収量/総吸収量
カラマツ	モニタリングプロット (- / 1 箇所)	-%	カバレッジ=グルーピングされた小班の吸収量/総吸収量
アカマツ	モニタリングプロット (- / 2 箇所)	-%	カバレッジ=グルーピングされた小班の吸収量/総吸収量
計	モニタリングプロット (6 / 19 箇所)	40%	

その他、プロジェクト対象地を遠望し、成林状況を確認した。

1.10 QA/QC 体制の評価

GHG 情報システムとその統制の評価としては a) から f) の事項を考慮しつつ、QA/QC 体制についての評価を行なった。
詳細は章末のチェックリスト参照。

- a) GHG のデータ並びに情報の選定及び管理
- b) GHG のデータ及び情報の収集、処理、統合、報告のプロセス
- c) GHG のデータ並びに情報の正確性を確保するシステム及びプロセス
- d) GHG 情報システムの設計及び保守保全
- e) GHG 情報システムを支援するシステム及びプロセス
- f) 入手可能かつ適切な場合は、今までの評価の結果

1.11 GHG データ及び情報の評価

排出削減（吸収）量算定のための GHG データが、公的なもの、もしくは本制度で定められた数値を使用しているかを確認した。

1.12 検証記録

検証履歴については、文書化を行い、証拠書類についても文書管理を行なっている。

1.13 検証後に発見された事実

特になし。

1.14 その他特記事項

プロジェクト代表事業者名：岩手県
検証機関名：一般社団法人日本能率協会

特になし。

2. プロジェクト基本事項

モニタリング報告書参照。

3. 検証結果

3.1 検証プロセスにおける判明事項と評価

- 重要な指摘事項はなかった。
- 重要な指摘事項と評価は以下の通りである。

3.2 不確かさ及び誤りの評価

(1) 計量器・方法の不確かさの評価（森林管理プロジェクトの場合、計量器の不確かさは各係数に含有されていると考えられるため、考慮しない。）

計量器の誤差の評価の有無（チェック印）
 : () 有 →下表へ記入。
 : (レ) 無 →記入不要。

2014 年度

排出（吸収）源 No.	対象データ	活動量(単位付記) ①	推定誤差 ②	単位発熱量 ③	排出係数 ④	排出源毎の計量器の誤差(t-CO2) ①*②*③*④
計量器の誤差の合計 $U = \sqrt{(u_1 E_1)^2 + (u_2 E_2)^2 + \dots + (u_n E_n)^2} = \sqrt{\sum (u_i E_i)^2}$ (検証ガイドライン p49 参照)						
総排出（吸収）量						
総排出（吸収）量に対する割合						

(2) 母集団全体に予想される誤りの評価（可能性のある誤り）

サンプリングの実施とその結果（チェック印）

: () 実施して、誤りが発見された →下表へ記入。
 : () 実施したが、誤りは発見されなかった →記入不要
 : (レ) 実施しなかった →記入不要（吸収量の確認は全数を実施）

プロジェクト代表事業者名：岩手県
 検証機関名：一般社団法人日本能率協会

2014 年度

排出(吸収)源 No.	対象データ	母集団全体に予想される誤りの内容	推定方法・推定過程	各排出(吸収)源の発見された誤りで未修正のもの (t-CO2)
可能性のある誤りの合計 Σ (各排出(吸収)源の可能性のある誤り)				
総排出(吸収)量				
総排出(吸収)量に対する割合				

(3) 未修正の誤り等

上記に該当しないものの、評価が必要と思われる未修正の誤り等の有無(チェック印)

: () 有 → 下表を使用。

: (レ) 無 → 記入不要。

2014 年度

排出(吸収)源 No.	対象データ	未修正の誤り等	計算方法・計算式	未修正の誤り等 (t-CO2)
その他の不確実性や誤りの合計 Σ (排出(吸収)源毎のその他の不確実性や誤り)				
総排出(吸収)量				
総排出(吸収)量に対する割合				

プロジェクト代表事業者名：岩手県
 検 証 機 関 名：一般社団法人日本能率協会

(4) 結論

	2014 年度		
1) 計量器・方法の不確かさ	0		
2) 母集団全体に予想される誤り	0		
3) 未修正の誤り等	0		
1), 2), 3) の合計 (t-CO ₂)	0t-CO ₂		
総排出(吸収)量 (t-CO ₂)	742t-CO ₂		
総排出(吸収)量に対する割合	0%		
適用した重要性の基準	(レ) 5%未満 (=37.1-CO ₂) () 10%未満 (= t-CO ₂)		
結論	無限定適正意見		
限定付適正意見の限定内容	—		

4. 検証業務にかかる品質管理レビューの実施状況

		デスクレビュー	現地検証	テクニカルレビュー
検証チーム	リーダー：井上 裕之	レ	レ	—
テクニカルレビューワ	レビューワ：松本 素之	—	—	レ